

コンテナ苗植栽機構

～トドマツなど枝の張ったコンテナ苗もやさしく確実に植え付ける植栽機構～

アピールポイント

従来の装置では植え付けられない、枝が大きく張ったコンテナ苗を植え付けることができます。



枝が根鉢より大きく張り出している

植付対象のトドマツコンテナ苗



従来の植付装置

筒の中を通すので苗が引っかかる



開発した植栽機構

筒がないので苗が引っかからない

- ・造林現場は厳しい作業環境で人手不足にもかかわらず、植栽本数の拡大が求められています。
- ・従来の植栽装置は、構造上の問題から枝が張ったコンテナ苗が植え付けられません。

発明の特長

従来の植栽装置は、筒の先を地面に刺し、土を押しつけながら蓋を開け、筒の上から苗を落とし込みます。このためトドマツのように、筒から苗の枝が張り出していると、苗が筒の中で引っかかって植え付けに失敗します。また、土が硬いと蓋が破損しやすいという欠点もあります。

本発明では、構造を見直し、枝が張った苗であっても確実に植え付けできるほか、硬い土でも開閉口が破損しにくい構造となっています。



植付中の植栽機構
爪が開きながら上がって植え付ける

活用に向けて

- ・北海道の主要樹種であるトドマツなど枝が張った大きな苗の植栽を機械化できます。
- ・本機構を核とし、穿孔機構等と連携させたコンテナ苗植栽機の開発等への活用が期待されます。

基本情報

発明の名称	植付装置及び自走式植付機		
出願人	道総研		
特許出願番号	特願2022-160184		
出願日	令和4年10月4日	登録日	
実施許諾実績	<input checked="" type="checkbox"/> 有リ <input type="checkbox"/> 無シ	発明場	森林研究本部 林産試験場

キーワード：植栽、コンテナ苗、道産針葉樹、機械化